

食育を通して 文化の再稼働を

20世紀の反省点をしっかりと見つめ直すと、失われた良き文化を再発見することができる。文化を再稼働する原点には、食があるのです。



水野 誠一

Seiichi Mizuno

1946年生まれ、東京都出身。慶應義塾大学卒業後、西武百貨店に入社。1990年に社長に就任。2001年にエコプロジェクト「Think The Earth」を立ち上げ理事長に就任。国内外の複数の企業の役職を歴任し、現在は株式会社IMA代表、株式会社リプロジェクト・パートナーズ代表取締役CEO。

<http://www.miznos.com>

過去を見つめ直し、
良いところを再確認

私たちが今過ごしている21世紀は、20世紀をきちんと振り返り、よいところは再確認、そして反省すべき点はしっかりと反省することをしなくてはならないと思っています。

確かに科学も経済も発展し便利にはなりましたが、今になってそこかに生じた矛盾が、さまざまなかたちで露呈しています。20世紀に失われた文化を再発見して、現代を生きる私たちが「文

化の再稼働“をしていくべきだと考えています。

すべての原点に、
食や農業がある

その文化の再稼働をするにあたり、重要な要素の一つとなるのが、食・農業です。生活文化の中で食の役割は絶大です。食べ物を買ってくるものではなく、自分たちで手をかけてつくるものであることを、親世代が子ども達に見せていかなくてはいけません。そう

することで、好奇心や疑問などが生まれ、またコミュニケーションにもつながっていくのです。

食事は食べるだけでなく、時間や空間、そして会話などをシェアする最大のチャンスです。食卓でお互いの時間などをシェアすることは、実は何を食べるかよりも、食育や教育の原点のよう感じます。

食育とは、子どものみならず、大人自身もたくさんのことを学ぶことができるもの。誰にとつても、一生を通して非常に大事なことだと思います。